

3.事例 5歳児6月

「うめ組でお祭りごっこをやりたいな！ 僕はこれを作ってみよう！」

幼児の姿の読み取りと教師の願い

地域で行われる祭りを金曜日に学級全体で見学した。祭りならではの衣装や楽器、背の高い提灯や、神輿、山車など、引き込まれるように見ているF児。「鈴がついてて綺麗な音が鳴ってる!」「首から提げているお守りの色がみんな違うんだね」細部にも気が付き、近くの友達と気が付いたことを共有している。降園前の振り返りには「月曜はお祭りごっこがしたい!」と話をしていた。土日にも子ども山車や神輿を経験した幼児が多くいた。祭りごっこのヒントになるよう、教師はその日の祭りの写真を、保育室に掲示し、神輿の土台や、金色の折り紙、鈴など、すぐに遊びに取り入れることができるように準備をしておいた。



5歳児の探究

5歳児6月

ものと向き合い、
探究を深める

友達とのゆるやかな
イメージの下、
自分の探究を楽しむ

これまでの経験を
生かしてものと関わり、
友達と協同して探究を進める

本事例における幼児の姿 6月10日

登園してきたF児は、保育室の昨日の祭りの写真を見て「お神輿、屋根は黒くてキラキラがいっぱい、てっぺんに鳥が乗ってたよね! どうやって作ったらいいの?」と教師に尋ねる。神輿にするための土台が使えることを伝えると、目を輝かせ、写真の前で、段ボールや絵の具などを用意して黒く塗り始める。

G児「お神輿? 僕もやってみたいな」とF児に声を掛けると、大きな段ボールを塗っていたF児は「大きいから一緒にやろうよ」と誘い、絵の具で塗り始める。G児は「乾いたら金の折り紙で写真みたいなキラキラをつけようよ」とF児に明日の相談をしている。

H児「鈴がついてた長いひもは三つ編みで作ったら? 私、三つ編み得意だよ」とカラーひもを持ってきて、三つ編みを始める。降園前の振り返りでは1メートル以上の三つ編みを持ち「全部で4本作るんだ」と学級の友達に見せている。

他の遊びをしていたI・J児は「長い棒に提灯ついていたのがかっこよかったよね」と、高張提灯を再現するための素材を二人で話している。「どうやって提灯みたいに膨らませる? 空気かな?」「僕は風船でやってみようかな」と、これまでの経験から提灯に適していると思うもので試しながら作っている。

次第に、幼児同士で必要なものや動きが分かり、役割を見付けたり、分担したりしながら、自分の神輿ではなく、「うめ組のお神輿」が完成した。神輿や高張提灯ができると、その後も衣装や帽子を再現したり、花や象の山車を作ったり、カメラマンをしたりする幼児もいた。作って遊ぶ中で、友達の得意なことが分かり、自分一人では難しい場面では、友達に声をかけて手伝ってもらおうような姿もあった。完成すると、園内を行列で歩いたり、他の学年の神輿と一緒に祭りごっこを楽しんだりする姿が見られた。



本事例における探究の姿と「幼稚園教育において育みたい資質・能力」との関わり

知識・技能の基礎

芸術表現のための基礎的な
技能の獲得

思考力・判断力・表現力等の基礎

他の幼児の考えなどに触れ、
新しい考えを生み出す喜びや
楽しさ

遊びを通しての
総合的な指導

学びに向かう力・人間性等
自然現象や、
社会現象への関心

絵の具や京花紙、段ボールなど、今まで遊びながら特性を知っている素材の中から、適切だと思うものを選ぶ姿

カラーひもを三本使って三つ編みを自分で作ったり、大きな段ボールにハケと絵の具を用意して塗ったりする姿

絵の具を使うために床にブルーシートを敷いたり、欲しい色のカラーひもを教師と一緒に探したりして、準備をする姿

友達が作っているものを見て「じゃあ僕はこれを作りたい!」と感じる姿
学級での遊びの振り返りを通して、「明日はこれを作ろう」と見通しをもつ姿

学級のみならず地域の祭りを見て、心を動かし、自分でも再現したいと思ふ行動に移す姿

平成28年中央教育審議会の別紙の図より、特にこの事例に関わる文言を入れた。

IV. 探究する幼児を支える環境と援助のポイント

○環境 ●教師の援助

砂場での遊び（科学的な興味・関心の事例）

ごっこ遊び（イメー

3歳児

お水を入れたい



このカップで試してみよう！
カップでも水が汲めるんだ。
今度はBちゃんの真似をしてみよう。

バケツに水を入れたいな。
うまく入らないけどどうしたらいいんだろう…

○自分で扱え、繰り返し試すことができるような用具を置いておく。
●幼児の小さな気付きや試しを受け止め、言葉で伝える。
【例：いろいろな大きさ（深さ）のバケツを用意しておこう。幼児の気付きや試しながら遊んでいる姿を、教師が言葉に出すことで、自分がしていることを明確に意識し、もっとやってみようと思えるようにしよう。】

P4 探究する姿の事例 3歳児 参照



私もおいしいごはん



あ！この紙を使ってカレーにしよう。
たくさん作って
レストランにしようかな。

4歳児

水を流すためにはどうしよう



Kちゃんはどうやっているんだろう？
僕も樋の重ね方を変えてみよう。
あ！水が流れた！池ができた！！

僕の水路を作りたい！
でも途中で水がこぼれちゃうな。

○水や砂の特性を生かして遊ぶことができる用具を十分に用意しておく。
●教師と一緒に遊んだり、友達の様子に触れられるようにしたりして、水や砂の特性に気付けるようにする。
【例：様々な長さの樋や水道管、台などを用意しよう。樋の組み合わせ方や傾き、友達の様子に注目できるような言葉掛けをしよう。】



ペットのネコは何を



この紙を使ってみよう。
ペスト状のペットフードを作ったよ！
はいどうぞ！

5歳児

水を目的の所まで流したい



遠くまで流すには高さが必要だね。
漏れないようにしっかり付けよう。
流す水の量を少なくしてみよう。

遠くまで水を流してみたいけど
途中で水が漏れちゃうよ。
水路が曲がっているのかな？

○砂や水の特性を生かしてダイナミックに遊ぶ楽しさを感じられる道具を用意する。
●友達や自分の役割を意識できる声掛けをする。
【例：水の性質は分かっているな。友達の様子に着目したり、一つの遊びの中で、一人一人が役割を自覚できるような声掛けが必要かな。】



作ったケーキを友達



ケーキをきれいに並べよう！
お店だと分かる看板を作ろう！
パティシエだって分かる帽子をかぶっておこう！

ジを実現する遊びの事例)

をつくりたい

何を使って料理しようかな。
できたら先生に食べてもらおうかな。

○自分の思いや工夫によって変化できるような素材を提示する。
●遊び方のモデルとなる教師の姿を見せていく。

【例：見立てやすく、自分の力で変化させることのできるような京花紙、色画用紙を側に出してあげよう。教師が素材を丸めてご飯を作って見せたり、その場に適した動きや言葉のやり取りを見せたりしよう。】



お祭りごっこ（地域の文化を遊びに取り入れる事例）

お祭りで見たお神輿を作りたい

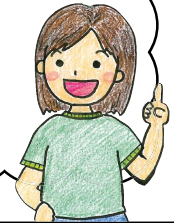


ワッショイワッショイしてみたい！
お神輿きれいだったけど、どうしたらいいのかな。

○学級でお祭りを見に行き、再現できるような環境を設定する。

●みんなでお祭りの雰囲気を楽しめるようにする。

【例：神輿の土台を置いておこう。祭囃子の音楽をかけたり、自分で扱える京花紙や、いろいろな形に切った色画用紙も置いたりしておこう。教師がリードして掛け声をかけよう。】



もっと貼りたい！
いっぱい貼るときれいだね！
こんな形も貼ってみよう！

食べるのかな

魚じゃないものが食べたいにゃ。
ペットのネコは何を食べるのかな？
ペットフードをどうやって作ろうかな。

○仲間意識をもつことができる場づくりができるようにする。

●友達の動きや言葉に注目できるような教師の声掛けをする。

【例：友達の姿が見える距離に場づくりができるよう援助しよう。遊びの様子を子どもたちに言葉で伝えていこう。】



P5 探究する姿の事例 4歳児 参照

お神輿の休憩所はどうやって作ろう

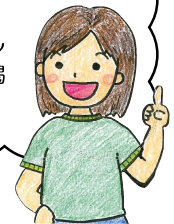


お神輿の途中で休憩所があったね。
何で作る？

○地域の人と触れ合うことのできる機会を設ける。

●地域の文化や人々に親しみを感じられるようにする。

【例：地域のお祭りに参加して経験したことを思い出せるような写真の掲示や言葉掛けをしよう。】



積み木で休憩所を作ろう！
ジュースを飲んだね。
ジュースをたくさん作ろう。

に食べてもらいたい

ケーキをたくさん並べたけれど
お客さんが来ないな。
どうしたらいいのかな？

○今まで経験した技術や経験を組み合わせる事ができる素材の設定をする。

●多様な試しを通して新たな考えを生み出す事ができるように、思いと経験をすり合わせ、つなぐ。

【例：今までの経験や、実際の生活の経験からどんなものが必要だったかな？と問いかけてみよう。】



うめ組でお祭りごっこをやりたいな



お祭りはお神輿だけじゃなかったよね？
他のものも作りたいね！

○地域で経験したことを学級で、共有できるような時間を設ける。

●再現して遊ぶことができる材料をそろえる。

【例：子どもたちと一緒に見たお祭りの動画を流そう。再現できる素材を扱いやすいようにそろえておこう。】



お花車や象も通っていたね！
象はカラービニールで作ろうかな。

P6 探究する姿の事例 5歳児 参照

V. 探究する幼児の姿と資質・能力との関係

知識や技能の基礎

基礎的な技能の獲得
/様々な気づき、発見の喜び

3歳児 探究する姿の
事例 参照 3歳(5月) ▶ p.4

基礎的な技能の獲得/自分なりの表現

3歳(6月)

製作コーナーにある“目玉シール”を空き箱に貼って目にしたり、クレヨンで口を描いたりし、自分のイメージする物を作ろうとする。

基礎的な技能の獲得/自分でできることへの喜び

3歳(10月)

今まで教師が作っていたお面ベルトやサンバイザー式帽の材料を製作コーナーに出しておく。警察官、電車の運転手など、遊びに帽子が必要な時や、友達と同じものがほしい時に、教師に手伝ってもらいつつ、自分で作ろうとする。

身体的技能の基礎の獲得

3歳(3月)

サッカーボールをどのように作ったらよいか悩む幼児に、保育者がビニール袋に新聞紙を詰める方法を提案すると、「それにする」と作り始める。その後は「白と黒のボールがいい」「模様はペンで描きたい」と、自分で作り方を考え作り進める。

芸術表現のための基礎的な
技能の獲得

4歳児 探究する姿の
事例 参照 4歳(5月) ▶ p.5

日常生活に必要な言葉の理解

4歳(1月)

5歳児が主催のポップコーンパーティーに参加する。翌日の好きな遊びで早速ポップコーンのお店を作り始めると、看板を作るために「ポップコーンってどうやって書くの?」と教師に尋ねる。

様々な気づき、発見の喜び

4歳(1月)

獅子舞を見た後、獅子頭を自分で作ろうとする。どうしたらおひねりが口から入るか、頭はどこから出せばよいか考え、工夫しながら作る。獅子頭ができると獅子舞ごっこで繰り返し遊ぶようになる。

芸術表現のための基礎的な
技能の獲得

5歳児 探究する姿の事例 参照
5歳(6月) ▶ p.6

規則性、法則性、関連性等の発見

5歳(7月)

「カートごっこがしたい」と大型積み木で道を作る。以前の遊びの経験から、ゲームボックスと台車を組み合わせて本当に動く車を作ろうとする。お客さんに楽しんでもらえるよう、工作紙でスターアイテムを作ってコース上に隠したり、自由に選べるキャラクターの帽子を作ったりする。

規則性、法則性、関連性等の発見

5歳(10月)

今までの経験から、ペットボトルのキャップ、ストロー、竹ひごがあれば車として走らせることが分かり、これを生かして電車を作る。

遊びを 総合的

好奇心、探究心

3歳児 探究する姿の事例 参照
3歳(5月) ▶ p.4

色等の美しさや面白さに対する感覚

色水(食紅3原色+水)を透明カップに汲み取りながら混ぜ合わせを作る。
友達の作ったジュースを見て「どうやって緑にしたの?」と問うと答える。言われた通りに混ぜてみるが思った色にならながら作る。

好奇心、探究心

4歳児 探究する姿の事例 参照
4歳(5月) ▶ p.5

音等の美しさや面白さに対する感覚

保育室に鈴や、タンブリン、トライアングルなど、音の鳴るで、楽器に触れ続けるうちに様々な音が鳴る方法を自分で音がカラカラに聞こえる」など気が付いたことを教師や友

自然現象や社会現象の関心

5歳児 探究する姿の事例 参照
5歳(6月) ▶ p.6

葛藤、折り合い

5歳(11月)

サッカー遊びで互いに自分の知っているルールを主張し、言い合いになる。互いの思いを聞き合い、その中から納得するルールを決める。

目的の共有、協力

うめランド(遊園地ごっこ)ショップのペット作りをしてがペットの足にタイヤを付アを思いつく。その姿を見て、が喜ぶね」と他の幼児も同じ

学びに向かう

「様々な気付き、発見の喜び」「試行錯誤、工夫」等の文言は、「幼児教育部会における審議の取りまとめ(報告)」(文部科学省 平成28年)における「資料1 幼児教育において育みたい資質・能力の整理」の中のものを使用した。

思考力・判断力・表現力等の基礎

予想/試行錯誤

3歳児 探究する姿の事例 参照
3歳(5月) ▶



新しい考えを生み出す喜びや楽しさ

3歳(6月)

ウレタン積み木で城を作る。
教師が小さめの容器に目を付けた人形を作ると興味をもち、京花紙を貼って洋服にしたり、人形を動かして遊んだりする。

試行錯誤、工夫

3歳(9月)

ペーパー芯をつなげて、ドングリを転がすコースを作る。広告を丸めた棒や積み木など様々なものを繋げてみたり、組み合わせてみたりする。ゴールまで転がるように、向きや組み合わせを工夫して遊ぶ。

予測、比較、確認

3歳(9月)

砂場で2つの電車を手にして、「トンネルを作るんだ」と言う。教師と一緒にトンネルを作ると、2つの電車が通るか試したり、トンネルの大きさを調整しようとしたりする。

他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ

4歳児 探究する姿の事例 参照
4歳(5月) ▶



試行錯誤、工夫

4歳(9月)

教師と一緒に、ポリ袋に京花紙を詰めて魚を作る。数か月後、友達と魚釣りの遊びをする時に、教師と作ったことを思い出し、友達に作り方を教える。

言葉による表現、伝え合い

4歳(3月)

当番活動の中で、同じ役割をやりたい2人の幼児が相談をしている。他の幼児も輪に加わり、互いに納得できる解決方法を一緒に考える。

他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ

5歳児 探究する姿の事例 参照
5歳(6月) ▶



振り返り、次への見通し

5歳(7月)

遊びの振り返りの時間に、小学校ごっこをしていた4人の幼児が、自分たちで作ったランドセルを背負って、他の幼児にも知らせる。「明日はこのランドセルを使って、遊戯室に小学校を作るんだ!」と嬉しそうに話をする。

自分なりの表現/表現する喜び

5歳(12月)

劇発表会の練習で踊りの振り付けを自分たちで考える。友達のリズムを取り入れながら自分の意見も伝え、踊りの振り付けを決めて人に見てもらおう。

言葉による表現、伝え合い

5歳(3月)

数人の友達と「かくれんぼをしよう」と集まる。始める前にどのようなルールにするか、確認をする。「棚とかあって危ないから廊下はなしでことにしない?」と自分たちでルールを考えようとする。

通しての な指導

3歳(7月)

わせ、様々な色のジュエ

くと、「赤と青を混ぜたず、いろいろな色を混ぜ

好奇心・探究心

3歳(3月)

空き箱でやかんを作り、そこからお茶を出してままごとをしたい。筒状の空き箱にペーパー芯で注ぎ口を貼る。お茶を出すため教師に「ここに穴開けてほしいの」と伝える。やかんができると、茶色い京花紙でお茶を作る。注ぎ口から出すために、京花紙を小さくちぎったり、細長くねじってみたりする。

4歳(12月)

楽器を設定する。遊びの中見付け「こうやって触ると達に伝えている。

話し合い、目的の共有、協力

4歳(2月)

「さくら組のザリガニはメス? オス?」幼児の一言から実物投影機でザリガニを観察する。図鑑を参考に、メスであることが判明する。その後ザリガニの名前を学級で円形に座って意見を出し合いながら決める。メスである事を基準にそれぞれ付けたい名前を考え、一匹のザリガニに5つの名前が付いた。日替わりで名前を呼ぶことにする。

5歳(2月)

に向けての活動中、ベットいた3名。そのうちの一人けて可動式にするアイディ「そうすると、お客さんように作り始める。

思いやり/相手の気持ちの受容

5歳(2月)

4歳児へアヒルの当番の引継ぎをする日。同じグループの子が欠席だったため、ひとりて3人の4歳児へ教える。「エサの大きさはありんこくらいだよ」とキャベツをちぎって見せる。アヒルにつつかれると「これは大好きのしるし。怖くないよ」と優しく伝える。自分が教えなくてはいけないと責任感をもって一生懸命に取り組む。

力・人間性等



VI. まとめ —研究によって、保育が変わる！—

2年間を通して、「私たちが幼児に育てたいことは何なのか」「本当に資質・能力は育まれているのか」に常に立ち回りながら、研究を進め、保育を改善してきた。

幼児期における教育には「探究」が必要であり、「遊びの中で探究をする」ことにより、資質・能力も育まれていくことが研究を通して、また、保育における幼児の姿からも実感することができた。また「探究の扉を開く」という研究主題の下に、教職員一人一人が幼児教育に対して探究する気持ちをもつことができた。

この研究を通して、学んだことは多いが、直接、保育の変容に関わった学びとして3点を挙げる。

遊びの中で育まれるもの

「探究」は、遊びの結果ではなく、その過程である。このことで、〇〇ごっこのような分かりやすい遊びではない幼児の動きの中にも、豊かな「探究」があることを発見することができた。毎日の保育記録を工夫し、「探究」という視点で、幼児の遊びを見ることにより、一人一人が何を目的や方向とし、どのように試行錯誤しているのかという経験内容の理解も深まった。

環境

「探究」は「環境」や「経験」があって、初めて起こる。幼児が探究を楽しみ、深めていくためには、幼児の実態把握の上で、積極的な環境設定が必要であることが分かった。ただ物が置かれていっただけでは環境ではなく、そこに「教師の意図」が入ることで環境となることが明らかとなった。

教師の援助

「発達による探究の姿」を意識して保育することで、一人一人の幼児の経験の何を大切にするのか、どの部分に援助が必要なのかが明確になった。「探究」という視点をもつことにより、幼児の思いつきがどのような探究の姿に展開されていくかを想定し、援助の方向性を探っていくことができるようになった。

<幼児の探究について学ぶ場の創生「ふらっと番町」>

本研究は、番町幼稚園教職員で行われたものであるが、「ふらっと番町」の取り組みそのもの、また、参加者からいただいたご意見が大きく影響を与えている。“みんなで学ぼう「ふらっと番町」”は、保育を公開し、ふらっと立ち寄れて、フラットな立場で保育の様子について語り合う場として、令和5年度に生まれ、年3回実施している。

地域の教育コミュニティ（併設する小学校・公私を問わない区内の幼稚園・保育園など）の皆様と一緒に、本園の保育を観察し、保育後には、探究する幼児の姿や、そのために有効だった環境や援助についてグループ協議を行った。

小学校長や小学校兼任の園長、指導主事、保育所管轄の課長などの参加もあり、「幼児期の教育」について語り合う大切な場となっている。



ふらっと番町の様子
(令和6年9月20日)

ご指導いただいた先生

共立女子大学家政学部児童学科教授 田代 幸代 先生

指導課長 山本 真 (令和5年度) / 上原 史士 (令和6年度)

統括指導主事 内山 宝

指導主事 戸栗 大貴 / 山本 孝之 / 齋藤 秀章 / 小峯 惣太 / 相場 奨太
塚田 恭平 (令和5年度) / 吉原 秀彦 (令和6年度)

研究に携わった教職員

園長：中村 千絵

今野 裕美 / 紺野 夢羽 / 岡部 志音 / 西山 恵美 / 佐藤 裕枝 / 丸木 恵 / 杉山 圭夏 / 内田 敦美 / 田中 世津子 / 湯浅 勤

令和5年度 押部 希 / 江尻 智子 / 岩丸 菜生

令和6年度 伊賀 梓 / 鈴木 野恵 / 竹内 淳子 / 渡辺 愛香

